

科目名	家庭基礎	使用教材	教科書 『新 家庭基礎』 実教出版 副教材等 『家庭基礎学習ノート』 実教出版
単位数	1 学年； 2 単位履修（前期 4） ベーシックコース	評価方法	評価の対象；「定期考査」「小テスト」の点数・「課題やレポート」の提出物・「授業や実習・実験への取り組み」の姿勢・出席状況 評価の割合；「定期考査」の点数が 70% 「その他の評価」が 30% です。

学習到達目標

家族や生活の営みを一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のあり方、乳幼児と高齢者の生活と福祉、家族の健康と衣食住、消費生活と環境などの関する基礎的な・基本的な知識と技術を習得し、男女が協力して家庭生活の充実向上を図る能力と実践的態度を養う。

★授業について

○自らの生活を見つめなおし、日頃から問題意識を持つようにしましょう。又、人と人のつながりを大切にし、皆が住みよい社会環境をつくる努力をしましょう。実験・実習を活用しながら、実践的・体験的な学習活動を進め、学んだことが確実に身につくように、工夫します。調べ学習や課題を通じて知識を深め、自ら問題解決していけるようにしましょう。

○実生活の中から課題を見つけ出し、すぐに実践・解決できることから始めましょう。

○調理などの実習にはふさわしい身だしなみを理解し、準備を整え、授業に臨み、忘れ物のないようにしましょう。

○講義形式・班別学習・班別作業・料理実習・実験など様々な学習活動を行います。

★自主学習について

◎予習

被服の基礎縫いや調理の基礎技術を理解し、主体的に保育、衣・住生活、消費生活に関する知識や技術を日常生活の中で養うように努力する。

◎復習

実験、実習を通して調理の基本を確認し、応用技術を身につけるようにする。

★その他

○みなさんが将来自立し、生活するために必要不可欠な基礎的・基本的な知識・技術について学んでいきます。学んだ知識や技術を確実に身につけるためには、実生活で活かしていくことが大切です。

○常に課題意識を持ち、習得した知識や実生活にいかしていくことができるように心がけましょう。

評価の観点

観 点	評 価 規 準
A：関心・意欲・態度	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組みましたか。
B：思考・判断	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。

C : 技能・表現	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。
D : 知識・理解	栄養・調理・マナーなどの基本的な知識が理解でき、楽しく豊かな食卓の演出するに関する基礎的・基本的な知識が理解できたか。

学習計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

月	週・時	単 元	目 標	学習の要点
4	2 3 4	第1編 人とかかわって生きる 1章 自分らしい生き方と家族 ○自分を見つめる ○パートナーと出会う（家族って何だろう） ○家族と法律 ○生活を支える仕事と生活時間	・青年期は、自分の存在や生き方を考え、アイデンティティを確立する時期であることを理解する。 ・家事労働と職業労働の共通点と相違点を知り、その課題について考える。	●自分史から考える未来の家族制度からみた人の一生 ＊家族・家庭との関わりに関心を持つ ●旧民法と新民法の比較 ●家族法について ◆生活時間について（アンケート） ＊生活時間と自己実現の比較
5	1 2 3 4	2章 子どもとかかわる ○子どもを知る（発達のすばらしさ） ○子どもの生活 ○親になることを考えよう ○すこやかに育つ環境 3章 高齢者とかかわる 4章 社会とかかわる ○高齢社会に生きる私たちの暮らし ○歳を重ねるといふこと ○豊かな高齢社会を迎えるしくみ	・人の一生と法律とのかかわり及び家族に関する法律について理解する。 ・「育つ」「育てる」ことの意味を深め、親になるこの意義や求められる資質について考える。 ・子どもを育てる環境や福祉について理解し、保育のあり方を考える。 ・わが国の高齢化の現状について理解する。	◆「赤ちゃんてすばらしい」（ビデオ視聴） ●子どもを取り巻く環境と権利（ビデオ視聴） ●子どもの成長と遊び ◆子どものおもちゃづくり（実習） ●子どもに関する法律（子どもの権利条約） ＊子どものすばらしさを実感 ●高齢者と高齢社会 ◆高齢社会とノーマライゼーション（体験学習とハンディキャップ擬似体験）
6	1 2 3 4	○支えあう暮らしとは 第2編 生活をつくる 第1章 食生活をつくる ○私たちの食生活を見つめる ○栄養と食品のかかわり ○食品の選び方と安全 ○食生活をデザインする ○これからの食生活を考える 第2章 衣生活をつくる ○人はなぜ衣服を着るのか ○健康的で快適な衣生活を	・ノーマライゼーションの実現のために、何を考え取り組んでいけばよいかなど、実践的な態度を身につける。 ・現在の食生活の傾向を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。 ・食品添加物の用途を理解するとともに、購入に際しての選択法を身につける。 ・衣服の歴史や着る目的について学び、自分らしく着ることについてかんがえる。	◆高齢者介護・看護法について ●福祉六法（高齢者福祉法） ＊高齢者の知恵を感じる ◆自分の好きな外食メニューから食を見つめる ●5大栄養素の働きとその食品について知る（成分表活用） ◆実験・実習（調理実習3回適宜） ●調理の基本を知る（調理法・分配のし方・切り型等） ◆食に関連ある問題調べ ●食品添加物・農薬について ●公害も含む食品汚染について

7	1	<p>つくる。</p> <p>第3章 住生活をつくる</p> <p>○人と住まいのかかわり</p> <p>○快適な住まいづくり</p>	<p>・実習を通して、基本的な技術を学ぶ。</p> <p>・家族の器として住居の機能や住空間及び住環境について科学的に理解し、住まいの選択について考える。</p>	<p>(ビデオ視聴)</p> <p>* 食文化の大切さ</p> <p>● 三原組織について</p> <p>◆ カラーコーディネート演習</p>
	2	<p>○健康的で快適な衣生活をつくる</p>	<p>・安全・健康に住む環境とまちづくりについて考える。</p>	<p>● 人間と住まいを風土や文化と関連させながら、住生活を考えさせる</p> <p>◆ 住居の平面図と製図実習</p>
	3	<p>○よりよい住生活を創造する</p>	<p>・自立した消費者として生きるとは何か、又、そのための知識や方法について学ぶ。</p> <p>・暮らしと資源、環境との関係を学び、暮らしを見つめなおす。</p> <p>・家庭経済と消費について理解する。</p> <p>・課題解決に向けて主体的に取り組む、習得した知識・技術を生かす。</p>	<p>◆ インテリア実習</p> <p>* 器としての住環境への関心度</p> <p>● 消費者の権利</p> <p>● カードの利用、キャッシュレスについて</p> <p>* 消費者生活をよりよく生きるため</p> <p>◆ エコライフ</p> <p>◆ 家庭の収入と支出(家計簿)</p> <p>* 家計の大切さ・バランス</p>
9	1	<p>第3編 消費者として自立する</p>		
	2	<p>○消費行動を考える(消費者の権利と責任)</p> <p>○資源・環境を考える</p>		
	3	<p>○経済のしくみを知る(計画的にお金を使う)</p> <p>※ホームプロジェクト</p>		

科目名	家庭基礎	使用教材	教科書 『新 家庭基礎』 実教出版 副教材等 『家庭基礎学習ノート』 実教出版
単位数	1 学年；2 単位履修 スーパー進学コース	評価方法	評価の対象；「定期考査」「小テスト」の点数・「課題やレポート」の提出物・「授業や実習・実験への取り組み」の姿勢・出席状況 評価の割合；「定期考査」の点数が70%「その他の評価」が30%です。

学習到達目標

家族や生活の営みを一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のあり方、乳幼児と高齢者の生活と福祉、家族の健康と衣食住、消費生活と環境などの関する基礎的な・基本的な知識と技術を習得し、男女が協力して家庭生活の充実向上を図る能力と実践的態度を養う。

★授業について

○自らの生活を見つめなおし、日頃から問題意識を持つようにしましょう。又、人と人のつながりを大切に、皆が住みよい社会環境をつくる努力をしましょう。実験・実習を活用しながら、実践的・体験的な学習活動を進め、学んだことが確実に身につくように、工夫します。調べ学習や課題を通じて知識を深め、自ら問題解決していけるようにしましょう。

○実生活の中から課題を見つけ出し、すぐに実践・解決できることから始めましょう。

○調理などの実習にはふさわしい身だしなみを理解し、準備を整え、授業に臨み、忘れ物のないようにしましょう。

○講義形式・班別学習・班別作業・料理実習・実験など様々な学習活動を行います。

★自主学習について

◎予習

被服の基礎縫いや調理の基礎技術を理解し、主体的に保育、衣・住生活、消費生活に関する知識や技術を日常生活の中で養うように努力する。

◎復習

実験、実習を通して基本を確認し、応用技術を身につけるように生活の場で実践する。

★その他

○みなさんが将来自立し、生活するために必要不可欠な基礎的・基本的な知識・技術について学んでいきます。学んだ知識や技術を確実に身につけるためには、実生活で活かしていくことが大切です。

○常に課題意識を持ち、習得した知識や実生活にいかしていくことができるように心がけましょう。

評価の観点

観 点	評 価 規 準
A：関心・意欲・態度	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組みましたか。
B：思考・判断	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。
C：技能・表現	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本

	的な技術を身につけている。
D：知識・理解	栄養・調理・マナーなどの基本的な知識が理解でき、楽しく豊かな食卓の演出するに関する基礎的・基本的な知識が理解できたか。

学習計画

●要点 ◆学習習慣・学びの発展 ＊心の成長

月	週・時	単 元	目 標	学習の要点
4		第1編 人とかかわって生きる 1章 自分らしい生き方と家族		●自分史から考える未来の家族制度からみた人の一生 ＊家族・家庭との関わりに関心を持つ
	2	○自分を見つめる	・青年期は、自分の存在や生き方を考え、アイデンティティを確立する時期であることを理解する。	●旧民法と新民法の比較
	3	○パートナーと出会う（家族		●家族法について
	4	って何だろう		◆生活時間について（アンケート）
5	1	○家族と法律		＊生活時間と自己実現の比較
	2	○生活を支える仕事と生活時間	・家事労働と職業労働の共通点と相違点を知り、その課題について考える。	◆「赤ちゃんてすばらしい」（ビデオ視聴）
	3	2章 子どもとかかわる		●子どもを取り巻く環境と権利（ビデオ視聴）
	4	○子どもを知る（発達のすばらしさ）	・人の一生と法律とのかかわり及び家族に関する法律について理解する。	●子どもの成長と遊び
6	1	○子どもの生活		◆子どものおもちゃづくり（実習）
	2	○親になることを考えよう	・「育つ」「育てる」ことの意味を深め、親になるこの意義や求められる資質について考える。	●子どもに関する法律（子どもの権利条約）
	3	3章 高齢者とかかわる		＊子どものすばらしさを実感
	4	4章 社会とかかわる	・子どもを育てる環境や福祉について理解し、保育のあり方を考える。	●高齢者と高齢社会
7	1	○高齢社会に生きる私たちの暮らし	・わが国の高齢化の現状について理解する。	◆高齢社会とノーマライゼーション（体験学習とハンディキャップ擬似体験）
	2	○歳を重ねるといふこと		◆高齢者介護・看護法について
	3	○豊かな高齢社会を迎えるしくみ	・ノーマライゼーションの実現のために、何を考え取り組んでいけばよいかなど、実践的な態度を身につける。	●福祉六法（高齢者福祉法）
9	1	第2編 生活をつくる 第1章 食生活をつくる		＊高齢者の知恵を感じる
	2	○私たちの食生活を見つめる	・現在の食生活の傾向を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。	◆自分の好きな外食メニューから食を見つめる
	3	○栄養と食品のかかわり		●5大栄養素の働きとその食品について知る（成分表活用）
	4	○食品の選び方と安全	・食品添加物の用途を理解するとともに、購入に際しての選択法を身につける。	◆実験・実習（調理実習3回適宜）
10	2	○食生活をデザインする		●調理の基本を知る（調理法・分配のし方・切り型等）
	3	○これからの食生活を考える		◆食に関連ある問題調べ
	4	第2章 衣生活をつくる	・衣服の歴史や着る目的について学び、自分らしく着ることについてかんがえる。	●食品添加物・農薬について
11	1	○健康的で快適な衣生活をつくる。		●公害も含む食品汚染について（ビデオ視聴）
	2		・実習を通して、基本的な技術	

12 1 2 3	3	第3章 住生活をつくる	を学ぶ。	* 食文化の大切さ
	4	○人と住まいのかかわり	・家族の器として住居の機能や	●三原組織について
	1	○快適な住まいづくり	住空間及び住環境について科学的に理解し、住まいの選択について考える。	◆カラーコーディネート演習
	2	○健康的で快適な衣生活をつくる	・安全・健康に住む環境とまちづくりについて考える。	●人間と住まいを風土や文化と関連させながら、住生活を考えさせる
	1	○よりよい住生活を創造する	・自立した消費者として生きるとは何か、又、そのための知識や方法について学ぶ。	◆住居の平面図と製図実習
	2	第3編 消費者として自立する	・暮らしと資源、環境との関係を学び、暮らしを見つめなおす。	◆インテリア実習
	3	○消費行動を考える（消費者の権利と責任）	・家庭経済と消費について理解する。	* 器としての住環境への関心度
	4	○資源・環境を考える	・課題解決に向けて主体的に取り組み、習得した知識・技術を生かす。	●消費者の権利
	1	○経済のしくみを知る（計画的にお金を使う）		●カードの利用、キャッシュレスについて
		※ホームプロジェクト		* 消費者生活をよりよく生きるため
				◆エコライフ
				◆家庭の収入と支出（家計簿）
			* 家計の大切さ・バランス	